

商人等約百二十名が幹事は山形記田中仁之助外三名、事務所を市内大橋町三九田中仁之助方に置いた（其後半家にして會費は約半數に減じた）

其後當地の勞働運動の主腦なる板野勝次、佐々木銀一外七八名の合同運動に奔走劇策の徒果大正十二年五月遂に前記二組合は合同成立し之時に岡山勞働組合を組織し役員を選定し同年六月十二日合同成立大會を岡山市岡山劇場に挙行し改め日本勞働總同盟大阪聯合會に加盟した當日の列席者約九五〇名斯くの如くにして自由聯合主義者と總同盟系の両者とを會員とするが組合の長く存立する理なく遂に大正十三年秋全

國總聯合決裂の際自由聯合派の會員は分派して中國勞働聯合會を組織した

其後本組合は組織を改め地域を岡山より山下に擴大したる結果大正十三年十月十日岡山勞働組合と改称した

其後に日本勞働總同盟の分裂に際し革新同盟に参加し日本勞働組合評議會に引續き属し大正一四、一五、一七職業別組合組織の主張は適して岡山合同労働組合と改称したるものあり

主張

（日本勞働總同盟及日本勞働組合評議會参照）